

ヴァチカン：機密文書漏洩

大ローマ布教所長
山口 英雄 Hideo Yamaguchi

ヴァチカンの内部ニュースは、ローマ法王、その特別秘書、国務長官だけが、それぞれ手紙、文書、資料に目を通して、吟味し、承知して、図書館内に文書として保管されるのが常である。ところが、昨年2011年の暮れ頃より、それらが次から次へと外部に漏洩していた。その漏洩のルートを調べるべく特別調査官も任命された。

2012年5月、出版社キアレレッテレ (chiarelettere) を通して『狎下』(Sua Maestà) という本が、ジャンルイジ・ヌッツィ (Gianluigi Nuzzi) によって発表された。その本には、法王への個人的内密の話、教会に関する提案、諸改革についての提案、教会会議の解放・改革・国際化、さらには聖職者の婚姻問題、女性の聖職者への任命等々が述べられている。外部の一般のものには分からない、ヴァチカン内部での意見の交換等の文書である。それらが、その本を通して暴露されたのである。ヴァチカンは調査の進捗を加速させ、2012年5月25日午後、ローマ法王の側近中の側近で、ローマ法王の執事、パオロ・ガブリエレが逮捕された。パオロ・ガブリエレは聖職者ではなく、在家信者である。46歳でローマ出身の既婚者、3児の父。前任者メモレス・ドミニと共に在家信者としては、ローマ法王に一番近い所にいた。そして、2006年より正式に法王ベネディクト16世の執事になったのである。

執事パオロ・ガブリエレの仕事は、ローマ法王が目覚ます前より法王の住む宮殿に行かなければならない。勤務時間は午前6時より午後9時まで。詳しく述べると、午前6時30分、ローマ法王の着替えにアシスト。7時、ローマ法王の朝の個人的ミサに同席。8時、ローマ法王の朝食のサービス。11時、ローマ法王の特別謁見並びに一般謁見に同席。12時30分、ローマ法王の昼食サービス。19時30分、夕食のサービスとローマ法王のベッドの用意。それが終わって夜9時に解放され、ヴァチカン内にある自宅へと戻って行くのである。

ローマ法王の部屋に彼は自由に出入りできた。そのために法王の書斎の机の上にあった各種の手紙、書類をコピーして運び出していたのである。それを外部の人間、特にイタリア人のジャーナリスト、ヌッツィに手渡していた。逮捕された後、彼はヴァチカンの牢屋に入れられた。家宅捜査もなされた。多くの資料が発見され、4つの箱に収められた。また、撮影のためのカメラ、ドキュメント再生のための複製機も発見された。

以上のような動揺していた5月27日、5旬節(ペンテコステ・聖霊降誕祭)を迎えた。執事逮捕を知った法王は痛みを感じたようだ。しかし、日曜日の書斎からのアンジェラスでは次のように信者に呼びかけている。「教会は嵐の真只中にある。雨は降る。川は氾濫する。風は吹き、木々を倒し、家を破壊する。しかし、神の家は倒れない。それは岩の上に建っているからだ」と続け、信者たちを励まし、精神を新たにすることを願った。そして「成人し、成熟し、責任感を持ち、単純な時の風に流されない」ように信者たちに懇願した。

また、法王は5旬節の儀式で、説教の時には次のように述べている。「日常的な出来事に我々は拘っている。現代の人間は、より攻撃的になっているし、より衝突しやすくなっている

る。現代は多忙を極め、『自我』に閉じこもって、自己の利益しか見ないようになった。我々はパベルの塔での経験とおなじように生きていることに気がついていない。現代では通信手段の可能性が増大した。それ故に相互理解はかなり前進したように思えるのだが、逆説的に、相互理解は退歩しているのだろうか。我々は同時に、エゴイストであり、寛容性の持ち主ではあり得ない。他の人のことを考え、他の人に奉仕することの喜びを見いだそう。それは常にキリストの精霊の助けが必要だ」。

牢屋に入れられたパオロ・ガブリエレは、かなり短期間で出獄するだろうと考えられていたが、すでに1ヵ月以上経過したが未だ獄中だ。牢は今までほとんど使われたこともなかった。牢の中にあるものはベッド、椅子、小さな机。部屋は冷暖房完備で、中庭に面した小さな窓がある。夫人との面会は今のところ禁止されている。夫人は着替えを持ち運び、時には薬も持って来る。それらは護衛官に厳しくチェックされている。内部にはテレビがないので、読む本も差し入れているようだ。

今回の事件は、逮捕されたパオロ・ガブリエレ一人の行為ではないと考えられ、バックには大物の共犯者がいると考えられている。ヴァチカン内部の抗争問題も絡んでいるようだ。5月27日、5旬節の祭日にもかかわらず、パオロ・ガブリエレが尋問されただけでなく、他の何人かも取り調べられた。しかし、誰であるのか一切発表がなかった。そのために、共犯者の名前、人数は全く公表されていない。騒動の発端となった本の著者ヌッツィは「我々の仲間20人ぐらい」と言っているのだ。共犯者として想像されている中には、何人かの枢機卿も含まれているようだ。ヴァチカンは、報道官ロンバルディを通していろいろ公表しているが、共犯者に関しては蓋をしたままで、一切明らかにしていない。

ローマ法王ベネディクト16世は、昨年後半に故国ドイツを訪れた。カソリック信者の多いミュンヘン界隈では歓迎の辞が聞けたが、プロテスタント信者の多い北部地区では市民の反応は冷やかだだったようだ。多くのキリスト教信者はカソリックの大改革を望んでいるようだ。その中でも、聖職者の婚姻の問題が解決すれば、聖職者の性的小児愛症事件は激減するだろうし、女性の聖職者への登用は、人間の男女平等問題に画期的変革をもたらすだろうと考えられている。しかし、法王はその問題については、一切触れなかったので、ドイツ国民をはじめ、世界の多くの国々の人は失望したようだ。

しかし、ローマ法王は違う面でヴァチカン内部の改革を急いでいるようだ。今回の機密漏洩事件をヴァティリークス (vatileaks) と呼んでいるが、一刻も早くそこから脱出することを願っている。そのために、法王は6月23日午後6時に次の5人の“賢者”を招集した。オーストラリア人で71歳のジョージ・ベル、カナダ人で68歳のマルク・ウェー、おぢばを訪れたこともあるフランス人で69歳のジャン・ルイ・トーラン、長らくイタリア司教会の議長を務めたイタリア人で81歳のカミッロ・ルイーニ、そして、スロバキア人で88歳のヨゼー・トムコである。この5名は教会奉仕の中でも、ローマのみならず国際的

(16頁へ続く)